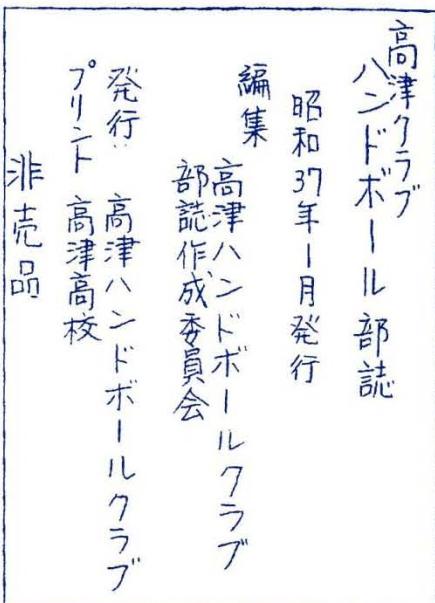


編集後記

比の一冊を作成するにあたり先ず困惑したのは、題を“高津クラブ史”にしようかといふことである。編集者の不徹底のために原稿の“史”とした人も“誌”とした人も、たゞうだが、根本的には異義のあるはもなく、唯今後再び比のような企画を整えて来た。企画以来約三ヶ月半のガリ板刷りの間に、林、井口君等、年末の忙しさで西リラし、予ばも読先知づか決定かまさ役が結い期すあ中でか

この冊子が、従来云われたOB会の縦のつながりの疎なる点を親しくて、今回の部誌は、資金の関係もあり、専らの印刷所に依頼し、寄稿者も特定の人だけではなく、より多數の人によらず、より多くなることを願って止まない。其のには、文才があるなしにかかわらず、又現部生活の長短にかかわらず、せめて読者の折る限りともお寄せ戴きたい。



部誌

復刻版の制作について

昭和三十六年十一月、高津ハンドボールクラブが大阪総合選手権で初優勝した記念の部誌を復刻しました。

当時の山川校長、田中顧問、中学二十二期 小西、男子部：三期 橋本、佐々木、五期 領田、上田、渡辺、六期 山中、七期 松田、八期 西田、九期 佐竹、辻本、十期 中江、十一期 石崎、十二期 浅野、十三期 林、渡辺、井口、斎藤、十四期 松倉、前田、田中、十五期 松村、鈴木、西本、十六期 代表、女子部：八期 徳美、九期 菊井、十一期 井上、浅野、十二期 安田、十三期 安村、十四期 久保田、藤原、佐藤、佐々見、十五期 西屋、門田、十六期 南部、木下（敬称略）の寄稿が掲載された部誌は、五十年間、高津高校同窓会（記念）館一階会議室のガラスケースに資料として展示されていました。しかし、藁半紙にガリ版刷りで傷みが激しく、平成二十三年一月、劣化防止のため、原文書からホッチキス針を取り除き、原紙を一枚ずつクリアファイルに入れてバインダーに綴じて保管する作業を行いました。その際、原紙をスキャンしたデジタル画像データを取得し、下地等のノイズを除去する処理をしたレプリカを作成しました。このレプリカを、平成二十三年七月、高津高校ハンドボール部OB・OG総会で回覧した結果、希望者に配布することになり、この復刻版を制作しました。

平成二十四年七月

ハンドボール部OB・OG会 副会長 中野元博（二十六期）